

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	非補助土地改良事業	会計	一般会計	事業No.	556	施策順No.	11-067
		事業種別	政策・重点	予算科目	6-1-7-17-1		
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり			課等名	土木課		
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動			事業期間	開始	終了	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	農業振興地域の農業施設で整備が必要な施設 農業従事者及び農業振興地域内農地					A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない						
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)						19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		要望施設数:か所							128	128	128	128	
		農振農用地面積:ha							3202	3202	3202		
意図	農業振興地域内の農業施設を改修することにより、維持労力の節減等営農の効率化を図る												
対象をどう変えるか	意図	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)					19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		実施地区数:か所					31	29	44	32	33	30	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	計画的に事業を進め、おおむね目標を達成できた。												

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	農業振興地域内の、農道整備・農道舗装・かんがい排水施設等の整備を、地区要望の中から、緊急度が高く投資効果の高い順に実施 農業生産力の増大、生産性の向上を図るための生産基盤の整備や農村環境基盤の整備などに係る費用に対して長期・低利な融資を行う、農業基盤整備資金を利用する、非補助土地改良融資事業(利子軽減)である		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	工事施工 (1)農道整備 (2)農道舗装 (3)かんがい排水	(1)施工箇所数 (2)施工箇所数 (3)施工箇所数	計33カ所 (1)16カ所 (2)0カ所 (3)17カ所
23年度実施計画	工事施工 (1)農道整備 (2)農道舗装 (3)かんがい排水	(1)施工箇所数 (2)施工箇所数 (3)施工箇所数	計30カ所 (1)16カ所 (2)1カ所 (3)13カ所

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金				特定財源内訳、補足事項	(そ)非補助土地改良事業分担金
		県支出金					
		起債					
		その他	114,120	114,120	103,000		
		一般財源					
	計(A)	114,120	114,120	103,000			
	正規職員所要時間						
	臨時職員等所要時間						
	人件費計(B)			0			
	トータルコスト A+B		114,120				

4 事業に対する市民や議会の意見

過疎化や農家の高齢化等の進展により、農業用施設の保安全管理が困難になり、老朽化が一層進み、地区からの改修要望が多く寄せられている。
---

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	荷痛みの解消、営農の合理化による増収が図れ、荒廃・遊休農地の増加が抑制される →事業者等が出荷額等を高める活動をする出荷額を高める活動をする	施策の成果指標又はムトス指標	既存農業者の産出額(農業):億円
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	農業振興地域内の農業施設を改修することにより、維持労力の節減等営農の効率化を図れ、おおむね要望された箇所が実施できた。		
	後期に向けた課題	過疎化や農家の高齢化等の進展により、農業用施設の保全管理が困難になり、老朽化が一層進み、地区からの改修要望が多く寄せられているため、計画的な事業実施。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	工法等の見直しによる、コストの縮減。		
	後期に向けた課題	よりいっそうの工法等の見直しと、コストの縮減による事業促進。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	経費の縮減と再生材の使用。		
	後期に向けた課題	さらなる経費の縮減と再生材の使用。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	飯田市の施設であり、飯田市で工事する。		
	後期に向けた課題	引き続き飯田市で関与し工事する。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してききましたか	4年間の振り返り	特になし。		
	後期に向けた課題	特になし。		
全体を通じて	4年間の振り返り	農業振興地域内の農業施設を改修することにより、維持労力の節減等営農の効率化を図れ、おおむね要望された箇所が実施できた。		
	後期に向けた課題	過疎化や農家の高齢化等の進展により、農業用施設の保全管理が困難になり、老朽化が一層進み、地区からの改修要望が多く寄せられているため、計画的な事業実施。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------